

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立新座高等学校		Cグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	「みんなの心が共に」という文言に、全教職員・生徒・保護者・地域が協力して学校をより良くしていこうという意識が感じられる。関係者全員の想いととも学校を目指す方向が分かりやすく簡潔に表されている学校像である。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	学校の教育目標と重点目標を有機的に結び付けている。目指す学校像の実現に向けた中期的な目標となっており、「学ぶ喜び」「徹底的に寄り添い」などの分かりやすい文言を用いて、学校の姿勢について共通理解が図られるように工夫されている。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校の「現状と課題」を丁寧に分析して具体的に示すなど、学校自己評価システムを活用して取組を進めようとしている。評価項目を、年度達成目標として重点化するとともに、学校全体の目標と分掌・学年等の目標の連鎖を更に明確にすることが望まれる。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	現状や課題に基づき、協調学習を取り入れた授業など評価項目の達成に向けた方策が実施され、成果も見られている。方策や評価指標がやや抽象的であるので、一步踏み込んだ具体的な方策を策定し、その達成イメージを共有できるような分かりやすい指標を設定することが望まれる。	
	校長的的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	誠実に課題に向き合い、教職員一人一人の能力を生かすとともに生徒のモチベーションを向上させて、解決を図ろうとする校長の意欲が感じられる。校長が状況に即して的確にリーダーシップを発揮し、目標の達成に向けて更に組織的に取り組むことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	市内の全中学校のPTA会長を学校評価懇話会の委員とするなど、学校関係者評価を取組の改善に積極的に生かしている。課題や次年度への改善策を明らかにするために必要なデータとなるようアンケートの設問などの工夫を行い、前年度の課題を次年度のより具体的な取組につなげるようにしていただきたい。	
特記事項			